

私たちは生活などのごみを年間2000万トン捨てていると言われていています。食べ物だけを見ても、輸入しているのは5800万トンあります。輸入している1/3は捨てている計算になります。世界で飢餓に苦しんでいる人々がいますが、先進国からは760万トンしか援助できていません。このような統計をみていると、無駄にしているものが多いと感じます。そして必要な所に行き渡っていないこともわかります。なぜこのように無駄に捨ててしまう環境（世界）になってしまったのでしょうか。今日のタイトルは恵みを無駄にしないですが、私たちはこの恵みという言葉をもどのように受け止めているのでしょうか。ヘブル語では①トープ：良い、好ましい、より良くなる、うれしくなる…②チャーナム：憐れみを受けるや与える、好意、親切心、むかつく、嫌でたまらない…などの意味があります。良く見てみますと、恵みという言葉の原意として「むかつく、嫌でたまらない」という相反するものが含まれています。これは何を意味しているのか。それは私たちの恵みの受け取り方によって好ましいと受け取れるか、反対に嫌でたまらない、むかつく（いらいらする）など両極端な感情に分かれると言う事を示唆しているのです。ヤコブ4：1～7には願っている動機（プロセス）についてかかれています。自分のために願っているものであれば、恵みとして受け取れるのは自分の望んでいることだけになります。それはプロセスが間違っているともいえます。間違っているといらいらしてしまったり、嫌でたまらなくなります。ですから、私たちが聖書に照らして間違った動機ではなく、愛に根ざして求めているのであれば、同じ事柄でも恵みとしてうれしいものとして受け取れるのです。聖書こそ私たちが正しい判断、正しい行動ができてきているのかの基準とするべきものなのです。「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。（詩 119:105）」私たちは聖書に基づき何が正しくない事なのか認識することが大切なのです。聖書の言葉を受け止めてどのように行動するのは私たちです。悪魔は私たちを的外れ（罪＝ハマルティア）の状態にするために、誘惑してくるだけです。それを決断しているのは同じ、私たちです。恵みにとどまるために①**低くなる**。神の嫌うものの中に高ぶり、高慢があります。今与えられているものに対して当たり前になってしまいます。これは高慢です。自分より低いものをみて優越感に浸ることは罪です。今与えられているものに感謝していますでしょうか。「尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。（ローマ12：10）」人それぞれ、能力（タラント）に違いがあります。その人の良いところを見つけ尊敬していく。良いところを見れないのは自分を否定してるからです。故に、赦せないという思いが湧いてきてしまうのです。恵みは低いところから高いところへ流れます。謙った人から流れていくのです。②**〇〇させていただく**。〇〇してあげると思っていることは無駄に終わってしまいます。「あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。（マタイ6:3）」このように、良いことをしても上から目線で“してあげる”ではなく、“させていただく”と低いところから流れるようにしましょう。私たちを通して多くの恵みが流れていくためにまず自分のために得た→それを人に分けるのではありません。周りの人に流すために良いものを受けていると謙っていきましょう。そして私たちにできる事を主のためにさせていただきましょう。自分がしてあげていると的外さないように注意しましょう。最後に「③**キリストの姿に**」です。今まで①と②のポイントはキリストの生涯を表している言葉です。馬小屋のような人が嫌がるような低いところで生まれ、罪を犯したのではないのに私たちの身代わりとなって十字架にかかって死んで下さいました。それ以上に神であったキリストが人となり地上に生まれてきました（ピリピ2：6～9）このキリストの姿こそ、自分を低くし、私たちを救うために〇〇させていただいた姿を見る事ができます。私たちに与えられているすべてのものを神からの恵みとして受け止めていきましょう。その中で無駄にしてしまっているような生き方をやめましょう。世の光、地の塩としてキリストの姿を現しながら、与えられている恵みを流していきましょう。